

フィリピン支援だより（最終）再び7スピリットへ 3月17日

スラムの子どもたちの願いを聴きました

3月10日の「日本文化交流」に続いて、スラムの生活状況や将来の夢をインタビューしました。帰国後に生活状況と伝える新たなボランティアを試みました。

10時、セブンスピリットの建物に着くと、日差しを避けて軒下に数家族が寝ています。貧困の現実を目にし、2階の教室に上がります。



ホームレスの家族が増えていました



絵「私の夢」を手にパートナーと記念写真

夢を絵にしてみよう

アート交流から聞き取りを始めました。美術・音楽の授業がない（また学校に通えない）子どもの絵は、鉛筆で描画するだけでした。留学生が、色鉛筆などで彩色をアドバイス。みるみるカラフルな「私の夢」が出来上がりました。



「素敵な絵に色をつけてみようね」



「いまこまっていることはなに？」

インタビューを終えて

半数以上の子どもの夢は、医師・看護師。他に経営者・軍人歌手・先生もみられました。田中 NPO 代表は、「生活体験が乏しく、家族の病気で通院した時に優しくされた思い出が残る」と話しました。

聞き取りには大学生インターン4人が英語のサポート。文教大学生 S さんは「高校時代に海外の子供と出会う体験は貴重ですね」と言われました。

帰国後、留学生は子どもの声のレポートを地域に報告します。「すべての子どもに学ぶ機会を作る活動」へのご支援よろしく願いいたします。（終わり）



聞き取りのようす



毎年、家賃 10% 値上げで未修理ままの天井



サポートしてくれた なつきさん(洗足大)



インタビューを終えて 語らいの時